

# ある看護科教員のアタマの中

13

## ～自分の感情に素直になること～

山岸 若菜

私の勤務する大学では現在4回生の実習中です。

10～11人グループで2週間ずつ6クール、色々な科を回って実習します。その実習でたいていの科では患者さんの情報を収集する→何が患者さんの看護問題か考える→問題解決に向けてプランを立てる→プランを実施するという流れで進んでいくのですが、私が担当する精神科の実習では、患者さんを理解するために患者さんと学生の間でどんなことが起きているのかを考えることに重きが置かれています。

そのためにプロセスレコードという記録を毎日書くことになっていて、その日の実習が終わった後、学生は患者さんとのやりとりを思い出しながらそのやり取りの中で自分と患者さんの間でどんなことが起きているのだろうと考えます。

記録を読んでいると自分の感情に素直になることというのは案外難しいんだなと感じたので今回はそのことについて書こうと思います。

### プロセスレコード

私も看護学生の時プロセスレコードは1回ぐらい書いた覚えはありますが、あまり馴染みのないものでした。

記録の項目は<患者さんの言動><学生の思ったことや感じたこと><学生の言動><やり取りの意味>で構成されています。

これまでの実習とは記録の形が違うので、実習前半は<学生の思ったことや感じたこと>に患者さんの言動を受けて「考えたこと」を書いてくる学生が多くいました。

学生と話していると「この場面どう思ったん？」と聞くと「ちょっと、ん？」と思いました。と言っている記録にはなかなか出てきません。

どうやら患者さんに対してネガティブなことを思っではいけないと思っているようでした。

## 感情労働

最近は感情労働という言葉がよく聞かれるようになりました。

看護師や介護関係、キャビンアテンダなどの対人サービス業のように相手から向けられる感情に対して、自分の中で湧き上がってくる感情とは違う態度で接する機会が多い職業で使われています。

暴言や理不尽な要求が従業員のメンタルヘルスや離職に直結する「労働問題」としてカスタマーハラスメント対策も進んできていますが、自分自身の精神状態を健康に保つためにももっと自分の感情を大切にすることに関心も出てきています。

実習が進んでいき、何度も自分の感情を素直に記録に書いていいと伝え続けると、学生は少しずつ患者さんに対して抱いたネガティブな感情も書くようになってきました。

そこに出てくる患者さんの言動とのズレがまた患者さんを理解することに繋がっていくんだらうと思います。

実習はやっと1クール終わりました。これからどんな患者さんと学生とのやりとりが見られるのか楽しみです。